

新選組ってなんだろう？

みなさんは「新選組」という名前なまえを聞いたこときがあるでしょうか？新選組は、幕末ぼくまつ（江戸時代えどじだいの終わりおの頃ころ）に6年（1863年～1869年）ほど活かつ動どうしていました。短みじかい活動期間きかんにも関わらず、漫まん画がやゲーム、ドラマなどにもよく取り上げられてとあいるのが新選組です。

新選組とは、幕末しゆに主として京都きょうとの治安ちあんを守るため、今いまの警察けいさつのような活動かつをしていた人たちのグループのことです。新選組たいしの隊士ひじかたとしには、土方歳三ぞうや井上源三郎いのうえげんざぶろうなど日野ひので生まれ育そだった人たちもいました。

日野市しでは例年れいねん5月に「ひの新選組まつり」をかいさい開催しています。全国各地ぜんこくかくちから多おほくの人が日野をおとず訪れます。

新選組のふるさと日野

日野が「新選組のふるさと」と呼ばれているのは、京都などで活動していた新選組と日野との間に重要な三つのつながりがあるからです。一つ目は、新選組隊士の土方歳三や井上源三郎が、日野で生まれ育ち、天然理心流という剣術を学んで新選組の幹部を務めたこと。二つ目は、近藤勇、沖田総司など、後の新選組の中心メンバーらが日野で出会い、剣術の稽古に励んでいたこと。三つ目は、新選組隊士やその関係者の子孫の方々が、新選組ゆかりのものや言い伝えを大切に受け継いでいることです。「土方歳三資料館」、「井上源三郎資料館」、「佐藤彦五郎新選組資料館」の3館では、子孫の方たちが大切に守ってきた貴重な資料を見ることが出来ます。

いのうえげんざぶろう ひじかたとしぞう 井上源三郎と土方歳三

井上源三郎と土方歳三は、現在の日野市で生まれ育ち、天然理心流という剣術を学び新選組で幹部として活躍しました。

井上は日野の北原（現在の JR 中央線日野駅の近く）に生まれ、新選組では六番隊組長などを務めました。その後、1868年（慶応4年）1月3日、戊辰戦争の鳥羽・伏見の戦いで亡くなりました。お墓は日野の宝泉寺にあります。

土方は日野の石田（現在の多摩モノレール万願寺駅の近く）に生まれ、新選組では副長を務めました。戊辰戦争では最後まで戦い続け、1869年（明治2年）5月11日、箱館（現在の北海道函館市）で亡くなりました。お墓は日野の石田寺にあります。

さとうひこごろう 佐藤彦五郎（1）

今の日野市日野本町を中心とする地域は「日野宿」という宿場町であり、「日野本郷」とも呼ばれていました。地元で上佐藤、下佐藤と呼ばれる2軒の佐藤家が、代々、日野宿の「問屋」（宿場の代表者）と日野本郷の「名主」（村人の上に立って村をまとめる役）を兼ね、地域のリーダー役を務めてきました。下佐藤家に生まれた佐藤彦五郎は、日野のみならず南多摩地域のリーダーでもありました。

彦五郎は自宅の一角に天然理心流の道場を開き、そこに近藤勇や山南敬介、土方や井上、沖田総司や日野宿の剣士たちが集い、剣術にうちこみました。近藤が京都にいる間、彦五郎が多摩地域での天然理心流の弟子の世話をするなど、新選組を物心両面で支え続けました。

さとうひこごろう 佐藤彦五郎 (2)

日野では、明治維新のことを「御一新」(新たな世)ではなく、徳川幕府が崩壊するという意味で「瓦解」と呼んだと伝えられています。

維新前夜の日野。鳥羽・伏見の戦いで敗れた近藤らが江戸へ向かう新政府軍を止めようと甲府めざして進軍すると、彦五郎も日野宿の人々からなる「春日隊」を作って同行しました。そのため彦五郎は新政府軍から追われる身となりましたが、やがて許されます。

そして明治の世。彦五郎は再び日野宿のリーダー、さらに初代南多摩郡長として、新しい世の求めに応じて地域を支え続けました。

日野では、昭和のはじめまで土方や井上、近藤、佐藤のことを知る人々が生きていました。それが「新選組のふるさと」日野なのです。

とくがわ け おさ え ど じ だい 徳川家が治めた江戸時代

江戸時代は今から約400年前の1603年（慶長8年）に徳川家康が征夷大將軍となり江戸に幕府を開いたことに始まり、15代將軍徳川慶喜までの約260年間、徳川家が治めていた時代のことです。

江戸時代、幕府は「鎖国」といって、基本的に外国との貿易や行き来を禁止していました。また、国内は各地域を「藩」に分けて、その藩を大名が治め、その大名を幕府が支配するといった幕藩体制で政治を行っていました。しかし幕末には幕府に対抗する力をつけた藩が現れてきたため、政治が混乱するようになりました。

なお、大名ではなく、幕府が直接支配する地域（天領）もあり、日野を含めた多摩地域も天領の一つでした。

えどじだい 江戸時代の日野

日野は、^{た ま がわ}多摩川や^{あさかわ}浅川、^{ゆうすい}たくさんの湧水など
^{みず}水に恵まれています。そのため、^{すいでん}水田が多くお
^{こめ}米が^とたくさん取れる地域でした。また、江戸か
^{こうしゅう}ら甲州（^{やまなしけん}山梨県）・^{しんしゅう}信州（^{ながの}長野県）へと向かう
^{どうちゅう}甲州道中（^{かいどう}甲州街道）の^{しゅくばまち}宿場町でもありました。
甲州道中の^{とちゅう}途中にある多摩川には、^{はし}大きな橋を
つくらず、^{ふね}船で^い行き^き来する「^{わた}日野の渡し」があ
りました。この渡しを^{かんり}管理していたのは^{ひのしゅく}日野宿
^{ひとびと}の人々でした。

^{ぼくまつ}幕末、日野の^{ちいき}地域をまとめる^{しごと}仕事をしていた
^{さとうひこごろう}佐藤彦五郎は、^{あんぜん}地域の安全を守るための^{けんじゅつ}剣術の
^{じゅうようせい}重要性に^き気づき、^{てんねん}天然^{りしんりゅう}理心流を^{まな}学ぶとともに、
^{どうじょう}道場をつくり^{じもと}地元の人々に^{ひとびと}剣術を^{おし}教えていまし
た。

ばくまつ くろふねらいこう 幕末と黒船来航

江戸時代の終わりの頃を幕末と呼びます。幕末最初の重大事件は、1853年（嘉永6年）にアメリカの軍艦4隻が浦賀（神奈川県）に来航したことです。長官のペリーは幕府に開国（多くの外国が日本と行き来してよいとすること）を要求しました。

幕府のみならず日本中が鎖国（限られた国との間にしか行き来を認めないこと）をやめて開国するのか、鎖国を続けるのか大議論になりましたが、幕府はアメリカやロシア、イギリスなどと条約を結び、開国することにしました。さらに外国との貿易に関する条約を結んだことによって、国内の物の値段が上がるなど、生活が苦しくなる人が多くなり、世の中が安全ではなくなってきました。

かいこく じょうい 開国と攘夷

日本を開国し、アメリカやイギリスなどの外国と貿易に関する条約を結んだ江戸幕府でしたが、こうした方針に反対する人もたくさんいました。彼らは攘夷（外国人を打払うこと）をと
なえ、幕府の重要人物を殺害したり、外国人を襲撃する事件などを相次いで起こしました。その中には「桜田門外の変」という大事件もあります。将軍に次ぐ権力者である大老・井伊直弼が、水戸藩士らに殺されてしまったのです。

攘夷をするのかしないのか、これをめぐって、幕末の日本は大きく揺れ、たくさんの血が流されました。長州藩や薩摩藩は実際に攘夷を決行して、イギリスなどに戦争を挑みましたが敗北し、やがて攘夷という機運はすたれ、明治時代を迎えました。

てんねん り しんりゆう けんじゅつ 天然理心流という剣術

じっせんてき とくちよう も ぼくまつ すこ
実践的な特徴を持つ天然理心流は、幕末の少
まえ た ま ち い き ちゆうしん ひろ
し前から多摩地域を中心に広まった剣術です。
ぶ し みだ あんぜん まも
武士へのあこがれ、また乱れた地域の安全を守
るため、さらには習い事の一つとしてなどの
り ゆう のうみん あいだ
理由から、武士ではない農民の間でも剣術が広
まりました。

さとう ひこ ごろう けい こ おこな
日野では佐藤彦五郎が稽古を行っていましたが、
こんどう おきた そう じ と き ど き おしえ
近藤や沖田総司も時々、日野に剣術を教え
にきていました。いのう えげんざぶろう ひじかたとしぞう かれ
井上源三郎や土方歳三も彼ら
あせ なが しゆく や さかじんじゃ
とともに汗を流しました。日野宿の八坂神社には
ひとびと じょうたつ ねが ほうのう がく のこ
は人々が上達を願って奉納した額が残っています。
す。

てんねんりしんりゆう にゆうもん じょうたつ
天然理心流では、入門してから上達するにつ
きりがみ もくろく ちゆうごく い もくろく あた
れ、「切紙」、「目録」、「中極位目録」が与えられ、
さいご めんきよ いま
最後に「免許」が与えられました。これは今の
ぶげい だん あ
武芸で「段」を上がっていくようなものです。

ろうしぐみ けっせい 浪士組の結成

だいしやうぐん とくがわいえもち きやうと てんのう かんけい
14代将軍徳川家茂は、京都の天皇との関係
つよ がいこく じやうい
を強くし、外国との関係（攘夷をするかどうか）
はな あ きやうと い
について話し合うため京都に行くことになりました。
した。

とうじ あんぜん ばくふ しょうぐん
しかし当時の京都は安全でなく、幕府は将軍を
まも はん しょぞく ひと ろうし
守るため、藩に所属していない人（浪士）などを
あつ ろうしぐみ
集めて浪士組をつくることにしました。この浪士
てんねん りしんりゆう こんどういさみ ひじかたとしぞう いのうえげんざぶろう
組に天然理心流の近藤勇や土方歳三、井上源三郎
さんか やく にん けっせい
らが参加します。約240人で結成された浪士組
なかせんだう とお む
は、中山道（※1）を通り京都に向かいました。

とうちやく えど
京都に到着した浪士組でしたが、江戸が外国か
せ おお
ら攻められるかもしれないとのことで、多くは江
もど とうしよ もくてき
戸に戻るようになりました。しかし、当初の目的
かつどう
である将軍を守るために京都で活動すべきだと
かんが のこ
考えた近藤や土方たちは、京都に残ることにしま
した。

※1 中山道：江戸から今の群馬県、長野県等を通り京都へといたる道

しんせんぐみ たんじょう 新選組の誕生

京都に残った近藤・土方たちは、京都の安全を守っていた京都守護職の松平容保（会津藩の殿様）に安全を守る活動をしたいと願い出て、一緒に働くこととなりました。

そして「八月十八日の政変」（幕府と朝廷の協力により政治を行おうと考える会津藩らが、幕府を通さずに天皇と結んで攘夷を進めようとする公家や長州藩を追放した事件）で会津藩とともに功績をあげたことが認められ、近藤・土方らのグループに「新選組」という隊名が与えられました。

近藤や土方たちは、彼らを支えてくれていた日野をはじめ多摩地域の天然理心流関係者に、京都の様子を手紙で知らせたり、記念の品を送ったりしました。この時、やりとりしたものが子孫の方たちの家に大事に残されていたおかげで、当時の様子を知ることができます。

いけだ や じけん かつやく 池田屋事件での活躍

きょうと ちょうしゅうはん げんざい やまぐちけん ちゅうしん
京都では、長州藩（現在の山口県）を中心と
したグループが、幕府に反対する様々な活動を
おこな じけん お
行い事件を起こしていました。

1864年（元治元年）6月5日、そのグループ
が危険な計画をたてているという情報を手に入
れた新選組は、彼らが会議をしていた池田屋に
踏み込み、激しい戦闘を繰り広げ、そのグルー
プに大きな打撃を与えました。この池田屋事件
での功績が認められ、新選組は幕府から褒美を
あた 名 ひろ よ し
与えられ、その名が広く世に知られるようにな
りました。その後、長州藩は八月十八日の政変
や池田屋事件で受けたダメージを回復しようと、
京都に軍隊を送り「禁門の変」という事件を起
こしますが、この時也會津藩などに負けてしま
います。新選組はこの事件でも会津藩側で活躍
しました。

たいせいほうかん 大政奉還

「禁門の変」によって長州藩は朝廷も幕府も敵に回してしまい、天皇の命令で幕府は長州藩と戦争をします。1回目は実際の戦闘をすることなく終わりますが、2回目は長州藩が幕府軍を撃退しました。薩摩藩が長州藩へ武器を送るなどして支援したからです。この時、長州藩と薩摩藩との間に薩長同盟が結ばれ、共に江戸幕府をたおして天皇を中心とする政府をつくろうと動き始めていました。

幕府の力に限界を感じた15代将軍徳川慶喜は、1867年（慶応3年）に幕府（将軍）が政治を行うことをやめて、政権（政治を行い人々を従わせる力）を朝廷（天皇）に返す「大政奉還」を行いました。これにより、1603年に徳川家康が幕府を開いてから260年以上続いた江戸幕府は終わりを告げることとなりました。

ぼしんせんそう はじ 戊辰戦争の始まり

とくがわよしのぶ たいせい ほうかん さつ まはん
徳川慶喜は大政を奉還しましたが、薩摩藩や
ちょうしゅうはん ぜんこく さいだい りょうち も け たお
長州藩は全国で最大の領地を持つ徳川家を倒し
てしまおうと様々な挑発（相手が事件などを起
こすようにしかけること）を行います。それに
たい きゅうぼく ふ がわ え ど や しき
対して旧幕府側は、江戸にあった薩摩藩の屋敷
などを焼きうちするなどしました。そしてつい
に旧幕府勢力と薩摩藩や長州藩などを中心とし
た新政府軍との間に戦争が起こります。

1868年（慶応4年）1月3日、京都の鳥羽・
ふし み たたか はじ げきせん
伏見で戦いが始まりました。激戦の末、旧幕府
ぐん やぶ しんせんぐみ いの
軍は敗れてしまいます。この戦いで新選組の井
うえげんざぶろう な
上源三郎も亡くなりました。

鳥羽・伏見の戦いから1年5ヶ月続いた旧幕
府勢と薩摩藩や長州藩などを中心とした新政府
軍との戦争を戊辰戦争といいます。

こう ふ む しんせんぐみ 甲府に向かう「新選組」

え ど もど こう ふ まも
江戸に戻ってきた新選組は、甲府の守りをか
ためるため、こうしゅうどうちゅう かいどう すす
甲州道中（甲州街道）を進むこと
になりました。甲州へ向かった新選組を中心と
するぶたい げんざい こうようちんぶたい よ
部隊のことを現在、「甲陽鎮撫隊」と呼んで
います。

む とちゅう こんどう ひじかた た
甲府へ向かう途中、近藤や土方は日野に立
ち寄りました。さとうひこごろう ひと
佐藤彦五郎は日野の人たちで
「かすがたい つく いっしょ
春日隊」を作って「甲陽鎮撫隊」と一緒に甲府
に向かいました。しかし「甲陽鎮撫隊」はかつぬま
（山梨県）で新政府軍と戦い、負けてしまいました
た。

たいし に ながれやま
隊士たちは江戸へ逃げましたが、近藤は流山
ちば つか けいおう
（千葉県）で新政府軍に捕まり、1868年（慶応
いたばし とうきょうと しょけい
4年）4月25日に板橋（東京都）で処刑され
ました。それでも土方ら新選組の隊士たちは北
すす つづ
へ進み、新政府軍と戦い続けました。

ひじかたとしぞう しんせんぐみ さいご 土方歳三と新選組の最期

きゆうばく ふ ぐん ごうりゆう うつの
旧幕府軍と合流した土方らの新選組は、宇都
みや とち ぎ けん あい づ ふくしま せんとう く
宮（栃木県）や会津（福島県）などで戦闘を繰
ひろ はこだて ほっかいどうはこだて
り広げながら、箱館（北海道函館）に向かいま
した。

ちゆうしん ひと
箱館では、旧幕府軍の中心をになった人たち
りん じ せい ふ りくぐん ぶぎようなみ
で臨時政府をつくり、土方は「陸軍奉行並」と
さいばんきよくとうどり やくしよく つと
「裁判局頭取」などの役職を務めました。この
とき たいちよう そう ま の も
時、新選組の隊長は相馬主殿が務めていたよう
です。

めい じ
1869年（明治2年）5月11日、新政府軍は
ぼ しんせんそう お
戊辰戦争を終わらせるため、箱館の旧幕府軍に
たい そうこうげき かい し
対し、総攻撃を開始しました。新選組や土方も
ふんせん ふくぶ てっぽう たま あ
奮戦しましたが、土方は腹部に鉄砲の弾が当たっ
せん し ごと
て戦死します。その後、5月18日に旧幕府軍が
こうふく つづ しゅうけつ
降伏して、1年5か月続いた戊辰戦争は終結し、
れき し
新選組の歴史も終わりました。

じゅんせつりょうゆうのひ たま せいしんてきふうど 「殉節両雄之碑」と多摩の精神的風土

新選組の歴史は箱館はこだてで終わりましたが、日野
をはじめ多摩たまの人々の心から近藤こんどう・土方ひじかたが消え
ることはありませんでした。明治9年めいじ（1876
年）、高幡山金剛寺たかはたさんこんごうじの境内けいだいに近藤・土方たたを称えた
「殉節両雄之碑」が建てたられることになりました。
明治政府せいふの許可きよかが出たのは明治15年でしたが、
願ねがいを出した佐藤俊宣さとうしゆのぶ（佐藤彦五郎さとうひこごろうと土方歳三ひじかたとしぞう
の姉あねの子しん）が新政府を批判した罪ひはんで獄中つみごくちゆうにあっ
たため、碑ひが建てられたのは明治21年になりました。

多摩地域ちいきは自由民権運動じゆうみんけんうんどう（政府を批判し、自
分たちの意見いけんを政治せいじに活かすため国会開設こっかいかいせつなど
を求めた人々の運動もとひとびと）が盛んな所さかところでしたが、そ
の背景はいけいには、近藤・土方こんどうひじかたを生み出した多摩の
複雑ふくざつな精神的風土かんががあったと考えられています。